

記 録

岡山県における ヤマトヌマエビ, ミゾレヌマエビ (エビ目, ヌマエビ科), ヒラテテナガエビ (エビ目, テナガエビ科) の記録

矢掛町 江木 寿男

Records of *Caridina multidentata*, *Caridina leucosticta* (Decapoda, Atyidae) and
Macrobrachium japonicum (Decapoda, Palaemonidae) in Okayama Prefecture

Hisao Egi, Yakage-Town

はじめに

岡山県は北部に中国山地, 中部に吉備高原, 南部に岡山平野を有し, かつ瀬戸内海にも面しており多様な環境が存在することで多くの生物が生息している。岡山県には節足動物であるエビ類も海域を中心に多くの種が生息している。エビ類は淡水で過ごす種や海と川を行き来して回遊する種も岡山県に生息している。今回, 岡山県野生生物目録2009 (岡山県生活環境部自然環境課, 2009) に未記載のヤマトヌマエビ *Caridina multidentata*, ミゾレヌマエビ *Caridina leucosticta*, ヒラテテナガエビ *Macrobrachium japonicum* の3種の淡水エビ類について採集調査を行ったのでその概要を報告する。同定は豊田ほか (2014) 等を参考にした。なお, 保全土地名表示は市町村までの表記にとどめた。

確認の概要

表1および写真1~6に示す岡山県内の6調査地点でこれらの3種を確認した。表2に確認概要の一覧を示し以下種別に詳細を述べる。

ヤマトヌマエビの確認概要

表2に示すとおり4場所で総計28個体のヤマトヌマエビを確認した。

確認された個体は, 体側に赤い点線が数列認められたことからヤマトヌマエビと同定した (写真7)。いずれも流路距離の短い小河川で確認された。国土交通省が5年ごとに吉井川・旭川・高梁川の3大河川 (以下3大河川と呼ぶ) で行っている河川水辺の国勢調査でも記録がない (国土交通省, 2017)。このことから岡山県内での生息数は多くはないものと推測される。備前市産と玉野市産の個体については筆者が標本を保管している。

ミゾレヌマエビの確認概要

表2に示すとおり岡山市で1個体のミゾレヌマエビを確認した。

確認された個体は, 採取直後には頭胸甲側面に後方下向きの黒線があり, その直後に後方上向きの黒線が認められた (写真8)。実体顕微鏡下で観察してみると, 眼上棘がないこと (写真9: 緑矢印), 頭胸甲前側下部に棘がないこと (写真9: 赤矢印), 額角の上縁に歯が認められ眼窩より後方の根元側にも2~3歯存在しており額角は第1触角柄部先端をわずかに超え上縁先端には他と離れた歯があること (写真9: 黄丸) などからミゾレヌマエビと同定した。大河川の汽水と淡水の境目で確認された。国土交通省が定期的に行っている河川水辺の国勢調査でも1997年に高梁川で確認されている (国土交通省, 2017)。岡山市産の個体については筆者が標本を保管している。

連絡先: egim@mx3.tiki.ne.jp

ヒラテテナガエビの確認概要

表2に示すとおり瀬戸内市で1個体のヒラテテナガエビを確認した。

近縁種のテナガエビと比較して、確認された個体は体長（眼窩後縁～尾節末端まで）31mmと小さいことから幼体であり、頭胸甲側面に後方下へ流れる黒線が認められること、爪が太く平べったいこと、腰の中央に黒線が認められることなどからヒラテテナガエビと同定した（写真10）。流路距離の短い小河川で確認された。国土交通省が定期的に行っている河川水辺の国勢調査でも記録がない（国土交通省、2017）。このことから岡山県内での生息数は多くはないものと推測される。瀬戸内市産の個体については筆者が標本を保管している。

まとめ

淡水エビ類はペットとして売られることが多々あるため、近隣の個体群とのDNA解析結果を比較検討しないと人為移入を完全に否定することは難しいと思われる。しかし、隣県の兵庫県では今回報告した全種について記録がある（兵庫県農政環境部環境創造局自然環境課、2014；兵庫県陸水生物研究会、2011）ことから在来種の可能性が高いと思われる。

これらの3種のエビについては現時点で情報が不足している。ただ、これらの種が両側回遊性であることから既知産地近くの場所を詳細に調査すれば新たな産地が見出されるかもしれない。

謝 辞

現地での採集や同定に際しご協力いただいた岡山淡水魚研究会の皆様にお礼申し上げます。

引用文献

- 兵庫県農政環境部環境創造局自然環境課、2014. 兵庫の貴重な自然 兵庫県版レッドデータブック2014（貝類・その他無脊椎動物）、128pp. 公益財団法人兵庫環境創造協会、神戸.
- 兵庫陸水生物編集局、2011. 兵庫の川の生き物図鑑. 357pp. 兵庫陸水生物研究会、姫路.
- 国土交通省、2017. 河川環境データベース 河川水辺の国勢調査. <http://mizukoku.nilim.go.jp/ksnkankyo/index.html> [2017年11月10日閲覧]
- 岡山県生活環境部自然環境課、2009. 岡山県野生生物目録2009. 379pp. 岡山県生活環境部自然環境課、岡山.
- 豊田幸詞・関慎太郎、2014. 日本産淡水性・汽水性甲殻類102種 日本の淡水性エビ・カニ. 255pp. 誠文堂新光社、東京.

表1. 調査地点一覧表.

| 地点名 | おおよそ の川幅(m) | おおよそ の流速(m/s) | おおよそ の水深(m) | 主な底質 | 水草の有無 |
|----------|----------------|------------------|----------------|------|-------|
| 備前市No.1 | 2.2 | 0.17 | 0.16 | 石礫 | 無し |
| 瀬戸内市No.1 | 1.5 | 0.22 | 0.13 | 石礫 | 無し |
| 瀬戸内市No.2 | 1.5 | 0.40 | 0.13 | 砂礫 | 無し |
| 岡山市No.1 | 480.0 | 0.00 | 0.20 | 砂 | 無し |
| 玉野市No.1 | 2.0 | 0.19 | 0.20 | 砂 | 無し |
| 玉野市No.2 | 3.3 | 0.26 | 0.20 | 石礫 | 無し |

表2. 本報告で確認したヤマトヌマエビ、ミゾレヌマエビ、ヒラテテナガエビの個体数、採集地.

| No. | 年 | 月 | 日 | 種名 | 個体数 | 地点番号 |
|-----|------|----|----|----------|-----|----------|
| 1 | 2015 | 11 | 3 | ヤマトヌマエビ | 1 | 備前市No.1 |
| 2 | 2015 | 11 | 8 | ヤマトヌマエビ | 5 | 備前市No.1 |
| 3 | 2015 | 12 | 14 | ヤマトヌマエビ | 1 | 玉野市No.1 |
| 4 | 2016 | 1 | 5 | ヤマトヌマエビ | 20 | 瀬戸内市No.1 |
| 5 | 2016 | 4 | 12 | ヤマトヌマエビ | 1 | 玉野市No.2 |
| 6 | 2010 | 10 | 17 | ミゾレヌマエビ | 1 | 岡山市No.1 |
| 7 | 2016 | 1 | 28 | ヒラテテナガエビ | 1 | 瀬戸内市No.2 |



写真1. 備前市No.1の環境 (2015年11月3日撮影).



写真4. 岡山市No.1の環境 (2018年1月14日撮影).



写真2. 瀬戸内市No.1の環境 (2016年1月5日撮影).



写真5. 玉野市No.1の環境 (2015年12月14日撮影).



写真3. 瀬戸内市No.2の環境 (2016年1月28日撮影).



写真6. 玉野市No.2の環境 (2016年4月12日撮影).



写真7. 備前市産ヤマトヌマエビ (2015年11月3日捕獲撮影).



写真8. 岡山市産ミゾレヌマエビ (2010年10月17日捕獲撮影).

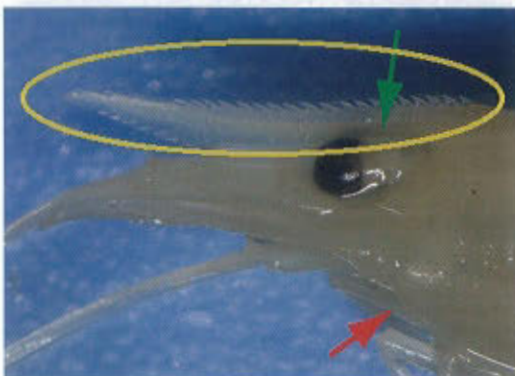


写真9. 岡山市産ミゾレヌマエビ (2010年10月17日捕獲, 2018年1月10日撮影).



写真10. 瀬戸内市産ヒラテテナガエビ (2016年1月28日捕獲撮影).